

【寿都漁港】

地域マリンビジョン目標の達成に向けた取り組み

●朱太川流域環境共生圏の形成

(1) 水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）		関連資料
地域 MV における取組の位置付け	<p>【地域の目指す姿】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流人口の拡大により地域の活性化を図り、人口減少に歯止めをかける <p>【主な取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍によるイベント中止の代替として ○近隣市町村関係団体への斡旋販売(寿かき、ホタテ) ○赤井川村ホピヒルズイベントで寿かきを販売 ○漁協ふるさと納税返礼品(寿かき、ホタテ、イクラ) ○インターネット販売(寿かき、ホタテ、イクラ) 	<p>取組場所</p>  <p>【取組の様子】</p> 
現状における取組実施の背景	<ul style="list-style-type: none"> ・都市と漁村の交流として、修学旅行及び一般ツアー客の地引網体験や体験乗船等の漁業体験、民泊等を実施することでコロナ禍前は毎年1,500人以上の人が訪れていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により令和3年はすべて中止。 ・漁港に隣接する道の駅や商店街との水産物を中心とする販売イベントも中止。 ・例年町内外のイベントでカキやホタテの販売を実施していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により町内外のイベントが中止や規模縮小。主にふるさと納税の返礼品、インターネット販売、近隣町村等への斡旋販売に取り組んだ。 	
取組により期待する効果	<ul style="list-style-type: none"> ・寿都ブランドの発信継続 ・漁業所得の向上 	
(2) 取組内容・実施体制（Do）		
取組内容、方法、手順、実施体制	<ul style="list-style-type: none"> ・寿都町、寿都町漁協、養殖漁業者 ・斡旋販売は、町内関係団体、近隣市町村関係団体、協定を結ぶ大学などに注文を取りカキ、ホタテの販売を実施。商品の箱詰め、梱包、発送、配達を漁業者、漁協職員、町職員で実施。 	 
(3) 効果項目に対する評価（Check）		
効果目標の達成度評価	<ul style="list-style-type: none"> ・カキ斡旋販売数 971箱（30個/箱） ・漁協ふるさと納税返礼品件数(カキ：545件 ホタテ：29件 イクラ：140件) ・インターネット販売(カキ：2,511箱 ホタテ：243箱 イクラ：94箱) 	
反省点	<p>令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、限定的な活動となった。今後は、さらに関係機関・団体間の連携、協力関係を深め、情報共有を密にして工夫しながら地域の活性化に取り組んでいく。</p>	
(4) 取組の改善措置（Action）		
取組内容の改善点	<p>斡旋販売の範囲拡大、コロナ禍におけるイベントの検討。</p>	
取組の実施に必要なもの	<p>関係機関、団体との連携、協力関係</p>	



【寿都漁港】

●朱太川流域環境共生圏の形成

(1) 水産業を核とした地域活性化の取り組み（地域の目指すべき姿）（Plan）		関連資料
<p>地域 MV における取組の位置付け</p> <p>【地域の目指す姿】 ① 水産業振興</p> <p>【主な取り組み】 ○地元小中学校の水産教育 ○東海大学との連携による水産振興</p>	<p>取組場所</p> 	<p>【取組の様子】</p> 
<p>現状における取組実施の背景</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基幹産業である漁業の担い手不足が一つの課題となっている ・ 小中学校の授業で地元の水産業の魅力を体験や調べることにより五感で学ぶことで、子供のうちから漁業に興味を持たせ、ひいては将来の担い手育成へとつなげる ・ 地域水産振興のため協定を結んでいる東海大学と連携して調査や試験研究を行うことで、新しい漁業等の発掘と人材育成を行っている 	
<p>取組により期待する効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元水産業に根付いた水産教育（水産業の PR） ・ 担い手育成 ・ チャレンジ旺盛な水産振興による活性化 ・ 水産振興の核となる人材の育成 	
(2) 取組内容・実施体制（Do）		
<p>取組内容、方法、手順、実施体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 寿都小学校各学年、総合的な学習 ふうタイム <ul style="list-style-type: none"> 1 学年：磯場学習 2 学年：ホタテ 3 学年：寿カキ 4 学年：ウニ 5 学年：サケ人工授精体験学習 6 学年：サケ稚魚飼育・放流、漁体験 ・ 寿都中学校、土曜授業 漁業体験 <ul style="list-style-type: none"> 1 学年：「海を知る」ホタテむき体験、漁港見学・清掃、乗船体験 2 学年：「海の技を活かす」漁港・浜直市場・産地市場見学、ロープワーク、乗船体験 3 学年：「海を育てる」海の施肥施設見学、ホッケ 3 枚おろし体験、乗船体験 全学年：「環境講話」海の役割と海洋ゴミ問題について考える ※東海大より講師派遣 ・ 地元水産物を使った給食の提供（小学校、中学校、高等学校） ・ 東海大学との連携による地域水産業振興 寿都漁港アサリ養殖試験、ナマコ種苗生産、イワガキ種苗生産、平磯アサリ漁場造成試験、漁港の海洋環境調査（プランクトン） 	
(3) 効果項目に対する評価（Check）		
<p>効果目標の達成度評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単年での評価は難しいが、継続実施することで効果が出ると期待している。 ・ 今年度は、地元中学校と東海大学との連携が実現した。 	
<p>反省点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 担当講師との事前打合せが足りない状況がある。 	
(4) 取組の改善措置（Action）		
<p>取組内容の改善点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体の方向性を見たときに、関係者の意識のずれを感じる。 	
<p>取組の実施に必要なもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 数年に一回でも関係者が集まり、教育理事側、担当教員、現地担当者、漁協、役場の方向性の擦り合わせが必要。 	 